

(議長)

休憩を閉じて再開いたします。

次に、大門議員の発言を許可いたします。

大門議員。

「大門議員」

1 問目。私からは子ども 110 番の家について質問いたします。

全国の小中学校に児童生徒を狙った不審 F A X が届き、1 月には町内の小中学校にも F A X が届いていますが、子供たちを犯罪などの被害から守るための地域活動として子ども 110 番の家を町内各所に設置されているが、このような時どのような連携をとっているのか伺います。

(議長)

教育長。

「教育長」

大門議員から子ども 110 番の家についてのご質問にご答弁いたします。

子ども 110 番の家については、大門議員ご承知のとおり、子どもたちを不審者から守るための対策のひとつとして、町内事業者や町内会などのご協力をいただきながら、個人の住宅などに子ども 110 番の家と記したステッカーを掲示し、地域ぐるみで防犯意識を高める取り組みとして、平成 26 年度より、江差町青少年健全育成会議で運動を展開しており、現在、171 件の登録をいただいております。

議員からは、本年 1 月に全国の小中学校や高校に金銭要求や殺害をほのめかす犯行予告 F A X が送信され、町内の小中学校にも同様の F A X が送信されたことを踏まえ、子どもたちの安全の確保と、子ども 110 番の取り組みがどのように機能しているのかといった主旨でのご質問であります。

はじめに子どもの安全の確保についてでございますが、教育委員会では、各学校に対して不審 F A X の内容に加え、具体的な安全対策として、集団下校や引き渡し下校の対応などを行うよう通知を行ったほか、江差警察署や檜山教育局などの関係機関とも連携を図りながら、子どもたちの安全の確保を最優先とし対応をしてきたところであり、議員ご指摘の子ども 110 番の家との連携については、その機能を果たしていないというのが実態であります。

一方で、現在、各学校に設置されているコミュニティスクールでは、子どもの見守りなどを含め地域と協働した取り組みが進められており、子ども 110 番の家運動の在り方についても改めて周知していく必要があると考えておりますし、有事の際の連絡体制についても L I N E などの利用を含め、関係機関と十分に協議をしながら、子

ども達の安全の確保に向けた議論を深めてまいりたいと考えておりますので、ご理解願います。

(議長)

はい、大門議員。

「大門議員」

はい、わかりました。

じゃあ2問目、質問いたします。(議長：はい。2問目の声)

防雪柵の必要性について質問いたします。町道田沢野線、清掃センター入口付近から江差高校までの間は、周囲が耕作地なため、吹雪の時は吹き溜まりや1 m先も見通せない状況となります。高校生の登下校時には交通量も多く非常に危険であり、財政上厳しいとは思われますが、計画を立てて防雪柵を設置する考えはあるか伺います。

(議長)

はい、町長。

「町長」

大門議員の2問目、防雪柵の必要性についてのご質問にお答えをいたします。

町道田沢野線の議員ご指摘の箇所につきましては、冬期間における日々の道路パトロール時におきましても、注視をしている箇所の一つとなっております。

また、当該箇所につきましては、吹き溜まりによる交通障害などが発生しないよう委託業者とも情報共有に努めているところであり、これまでも吹き溜まりの状況に応じて、除雪回数を増やすなどの対応を行ってきたところでございます。

さて、町内における防雪柵の設置状況でございますが、現在、椴川町などをはじめ7つの地域におきまして、総延長約1.1 kmにわたり防雪柵の設置を行ってきたところでございます。

しかしながら、町内には毎年のように吹き溜まりによる車両の立ち往生や通行止めが発生している路線もあり、役場関係課内におきましても防雪柵設置検討などの協議も行っているところでございます。

いずれにいたしましても議員ご案内のとおり、防雪柵設置につきましては相応の費用を要するところであり、財源の確保なども大きな課題となっております。

当面はこれまで同様にパトロールの強化や除雪回数を増やすなど、日頃の維持管理により安全対策を講じるとともに、今後の防雪柵設置個所の選定検討にあたりましては、財源確保対策も併せまして議論してまいりたいと考えておりますのでご理解願えればと思います。

(議長)

いいですね。

大門議員の一般質問を終わります。